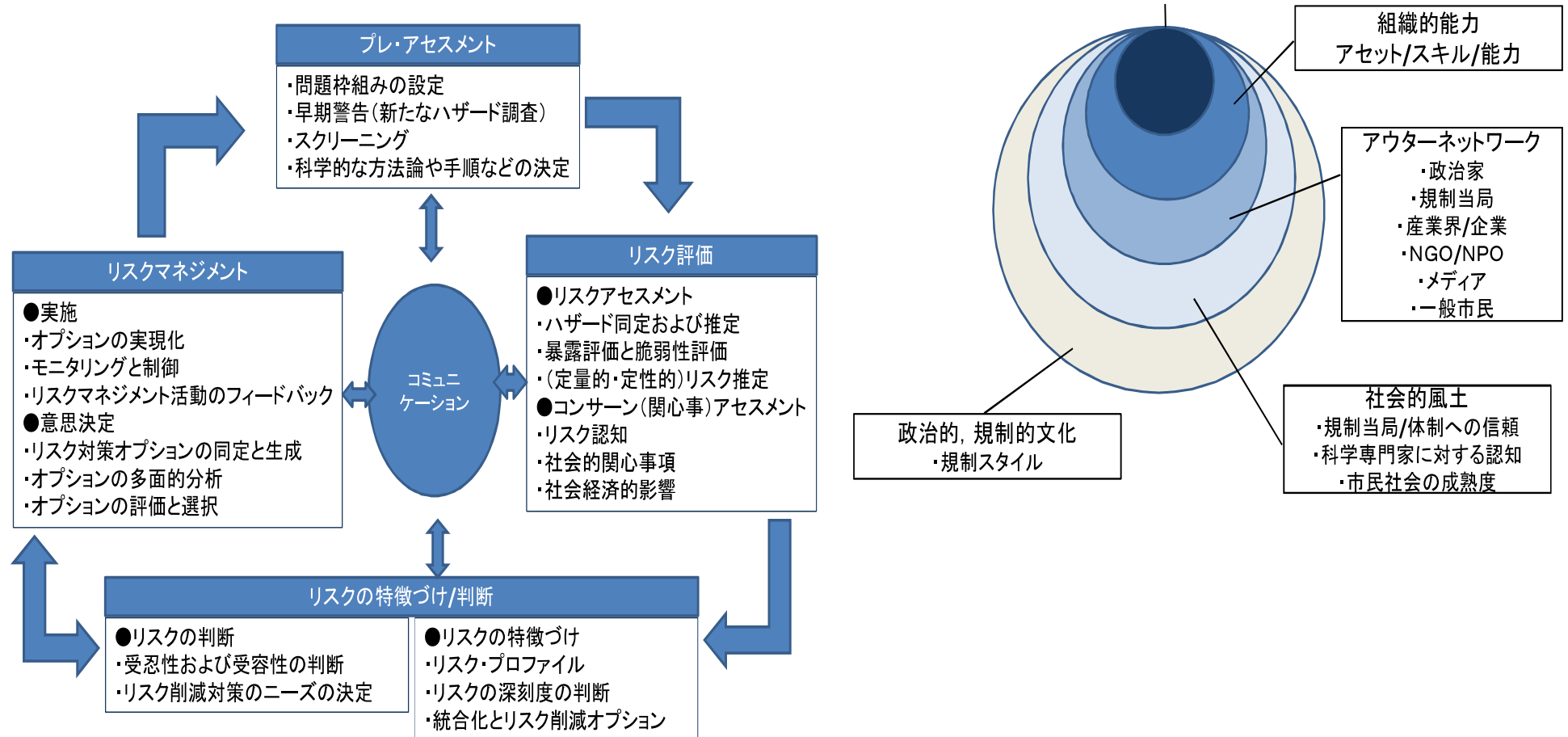


ディスカッション

これからのまちづくりにリスク管理の  
発想を

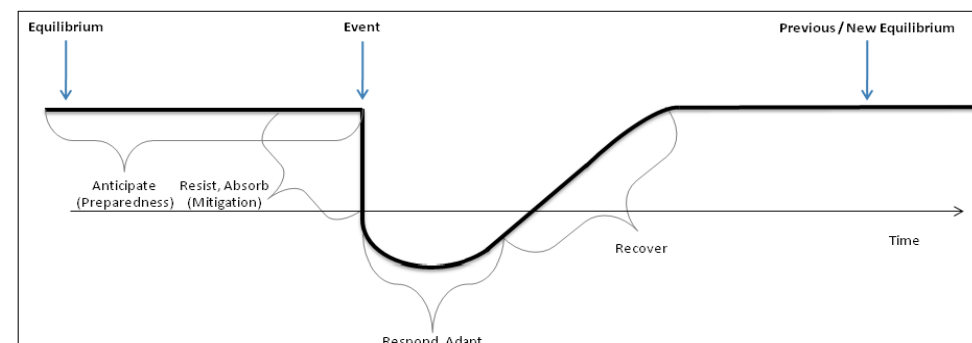
# リスク・ガバナンスの枠組み



# レジリエントな地域社会の形成に向けて

**レジリエンス**：外乱やシステム内部の変動がシステムの機能に与える影響を吸収し、状態を平常に保つシステムの能力、あるいは、想定を超えるような外乱が加わった場合であっても機能を大きく損なわない、損なったとしても早期に回復できるシステムの能力

- 複雑に繋がり相互依存性が高まる社会経済活動、リスク問題も相互関連し複合的になり、その影響は往々にして大きく場合によっては壊滅的になること、への理解を深める
- 社会的機能(重要インフラ)を維持することに焦点を当て、変動性と多様な平衡状態という概念を受入れる
- 計画の前提／仮定の妥当性を絶えず検証し、状態変化に応じて方策を変える順応的管理能力を養う
- 利害関係者の間の信頼関係を築く
- 資源を効率的に配分する
- 人間のレジリエンス(不利な生活環境に直面しても心理的に健康な状態を維持しつつ、ストレスにうまく適応する能力)への理解を深める



Anticipate	Resist	Absorb	Respond	Adapt	Recover
<b>Preparedness</b>	<b>Mitigation</b>		<b>Response</b>		<b>Recovery</b>
Activities taken by an entity to define the hazard environment to which it is subject	Activities taken prior to an event to reduce the severity or consequences of a hazard		Immediate and ongoing activities, tasks, programs, and systems that have been undertaken or developed to manage the adverse effects of an event		Activities and programs designed to effectively and efficiently return conditions to a level that is acceptable to the entity

# 「30年後の柏崎を考える」研究チームの提言 (地方自治総合研究所)

1. 原発再開・廃炉の議論には長期的な視点を持つ。
2. 情報の共有と議論をすすめる場をつくる。
3. 市民アンケートなどに表れた市民の意見を基礎にする。
4. 柏崎市の財政の豊かさが、原発立地に依存してきたものであることを認識する。
5. 原発が市民の生活を潤したのか、丁寧に検証する。
6. 財政が本格的な赤字に向かう前に、今から財政規模圧縮に取り組む。
7. 原発停止から廃炉に至るまで原発交付金を支出させる。
8. 自主的な財政再建計画を策定し、順次ローリングする。
9. 地域資源を洗い出す。
10. 地域産業を生かした将来像を描く。

# 日本社会/東海村は今後どこへ向かうだろうか？

- リスクと向き合い、対話と共考と協働し、自由・責任・リスクを皆が負うリスク社会へ向かうのか、それとも
- 安全安心をパターナリスティックな態度でとことん追求するという安全安心社会へ向かうのか。

注) パターナリズムとは、個人の利益を保護するためであるとして、国家が個人の生活に干渉し、あるいは、その自由・権利に制限を加えることを正当化する原理である。

社会がリスクの考え方をその文化の中に共有しうるようになるには、現在という時点ではなく、未来に向けての行動様式の中に変革が生まれてこなければならない。

Before a society could incorporate the concept of risk into its culture, change would have to come, not in views of the present, but in attitudes about the future. (P.L. Bernstein)